

「まちの防犯診断」への取り組み

愛知県セルフガード協会会員
防犯設備アドバイザー
株式会社アサノ通信 代表取締役

野口 勝弘



私の経営する会社の主力事業は、通信機器の設置や光回線等の宅内インフラ設備の電気通信工事ですが、近年の防犯設備機器がインターネット等の通信回線を利用した商品に変化してきた関係で、10年程前から、防犯機器の販売、施工にも多く携わるようになりました。

防犯設備機器業務に関わる中で防犯設備士の資格制度を知り、平成26年に資格を取得し、同年愛知県セルフガード協会に入会するご縁となりました。

日頃から、社会貢献無くして企業の繁栄・継続は無いと“心”しており、地域の様々なボランティア団体の活動にも積極的に参加しておりましたので、愛知県セルフガード協会の防犯ボランティア活動に対しまして、時間の許す限り参加しておりました。

ところが、去年は新型コロナウイルス感染拡大により、防犯講話やガラス割り実演等、従来のような形態での防犯啓発活動ができなくなる状況となりました。本年度に入っても、感染状況はなかなか落ち着きを見せませんが、「まちの防犯診断」という新たな活動が導入されたことで、以前と同じように積極的な活動を行うことができるようになりました。

「まちの防犯診断」とは、愛知県警察が委託した防犯設備士(当協会の防犯設備アドバイザー)が、地域の住民、警察官、自治体の方々と歩きながら街を診断し、防犯上の危険箇所を抽出し、防犯設備の設置などの必要な対策を提案します。更に、その提案に基づいて防犯環境の改善や自主防犯活動を強化していただき、地域の防犯力を高める取り組みです。屋外にて少人数で実施するので、新型コロナ感染予防の3密対策にも配慮しています。

防犯設備士は2人1組となり、1人は危険箇所を選定した理由と改善策を地域の住民、警察官、自治体の方

に解説し、もう1人はその診断内容をメモや写真で記録します。

診断結果は、回覧板や集会所の掲示板等で地域の方々に診断内容を共有していただくため、「まちの防犯診断報告レポート」を作成しお渡ししております。

防犯診断を通じて、防犯カメラの有効な設置場所の選定、防犯啓発プレートや防犯灯の設置について、地域住民の方や警察官から様々な視点の質問をいただき大変勉強になることも多々あります。

また、それぞれの地域によって防犯意識の違いもあり、アドバイスの仕方を変えていかないといけないとも感じました。

そして、地域住民の方に信頼していただくために、小学校の通学路、公園等の公共施設の環境、対象地域の犯罪情勢などを事前に調査するなど、当日の診断で的確な対応をするための事前準備を怠らないよう心がけています。

この取り組みは、全国的にも珍しいということ、また私としても初めての体験であり、「防犯のプロ」として恥ずかしくないよう活動しなければいけないといったプレッシャーもありましたが、それ故に、地域に貢献できるという遣り甲斐も強く感じており、今後も積極的に参加して参りたいと思っております。又、全国の防犯協会に携わる方が、今回の「まちの防犯診断」の活動をコロナ禍における防犯啓発活動の参考にしていただけたらと思っております。

このボランティア活動によって、診断した地域の防犯意識がより一層向上し、診断させていただいたまちが「安全に安心して暮らせるまち」となっていただけることを望むばかりです。

診断風景 1

古い住宅街にて、町の死角に対する対策を提案



診断風景 2

最寄り駅前にて、防犯啓発パネルの掲示を提案



診断風景 3

新興住宅街にて、防犯カメラの適切な設置場所を提案



診断風景 4

小学校の裏口付近にて、児童の安全対策を提案

